

にほんごを
おぼえたいひと
あくわだんちに
きてください



NIHONGO
おやこにほんごタイム
親子日语时间

Thời gian sử dụng tiếng Nhật giữa cha mẹ và con cái
Japanese Learning Hours for Parent and Child

2015 年度「おやこにほんごタイム」実施報告書

2016 年 3 月

公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)
瀬谷区地域子育て支援拠点にこてらす

はじめに

横浜市国際交流協会(YOKE)が2014年度に行った『就学前の子どもと親の支援に関する取組調査』では、「子育て支援」と「日本語支援」が不可分のニーズとして存在することがわかりました。同年度、瀬谷区で子育て支援活動を展開する多言語子育て情報発信プロジェクト(※1)が行った調査報告書『外国にルーツを持つ家族の子育てにおける現状と課題～多国籍親子への情報発信・つながり形成に関する報告書～』においても、外国人保護者の日本語学習への関心の高さ、「日本語学習+子育て情報の提供」の場の必要性が指摘されています。

「おやこにほんごタイム」

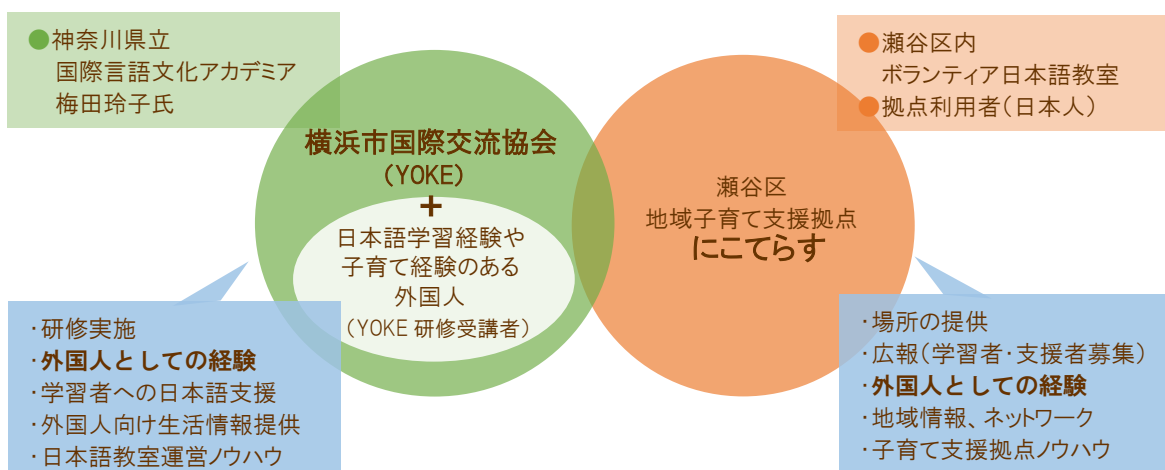
それらを踏まえ、2015年度、瀬谷区子育て支援拠点「にこてらす」とYOKEが互いの強みを生かし、外国につながる就学前の子どもと親のための日本語教室を協働で開催する運びとなりました。企画・実施には、神奈川県内で就学前の親子日本語教室開催実績を持つ神奈川県立国際言語文化アカデミア講師梅田玲子氏に多大なるご協力をいただきました。また、**子育て経験や日本語学習経験のある外国人が支援者として**、自身の経験を活かし様々な視点を提供し参画しました。

本報告書は、2015年10月～11月にかけて実施された親子日本語教室「おやこにほんごタイム」に向けた事前研修(2回)と教室実施(3回)の様子、その中で共有された視点や今後の課題をまとめたものです。

「日本語教室」のカタチにとらわれず、日々現実の困りごとに間に合うようにと手探りで始めた「おやこにほんごタイム」は、引き続き次年度も実施される予定です。

外国につながる親子にとっても**子育てしやすい地域づくりに向けて**、ひとつのヒントとなる事を願い、中間報告として皆さまと共有したいと思います。

※1 子育て支援団体、有識者、子育て当事者で構成される団体
(事務局:NPO 法人まんま)



目次

はじめに	p. 1
目次・開催概要	p. 2
にこてらす「出張ひろば（茶の間）」と 「おやこにほんごタイム」	p. 3
実施内容一覧・準備～教室実施の流れ	p. 4-5
おやこにほんごタイム 準備会①②	p. 6-7
おやこにほんごタイム 教室実施①②③	p. 8-10
おやこにほんごタイム 3回の試行を終えて・・・ —成果・気づきと今後の課題—	p. 11
新しい「子育て共同体」	p. 12
「支援に繋ぐ人」の増殖を目指せ！	p. 13
外国出身者がもっと活躍できる場を！	p. 14

●●● おやこにほんごタイム開催概要 ●●●

日時： 第1回 2015年10月23日(金) テーマ「お弁当」
第2回 11月10日(火) テーマ「病気・病院」
第3回 11月27日(金) テーマ「保育園・幼稚園」

会場： 阿久和団地第1・第2集会所

定員： 外国につながる親子 5組程度

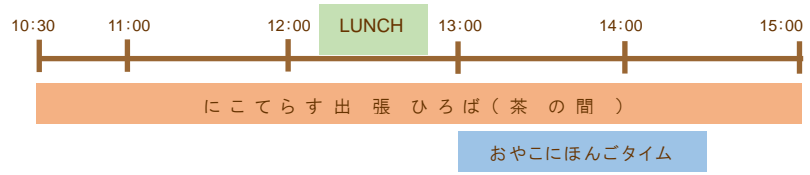
対象： 就学前の子どもとその親

参加費： 無料

主催： 公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)―横浜市国際局委託事業―
瀬谷区地域子育て支援拠点 にこてらす



普段の「出張ひろば(茶の間)」の様子。10:30-15:00 のあいだ開かれており、出入りは自由。お子さんは 0,1,2 歳が中心で、近隣幼稚園のママたちが集まることもある。お母さんがお茶を飲んで一息つけるよう、茶の間スタッフが子どもを見守る。ランチタイムを設けており、季節によってイベントを挟むこともある。



「おやこにほんごタイム」

瀬谷区・阿久和団地には就学前の子どもを持つ外国人が多く入居していますが、立地などの関係から、地域子育て支援拠点や日本語教室に通いづらく、生活情報や日本語学習の機会が不足しています。

瀬谷区地域子育て支援拠点にこてらすでは、月に2回、阿久和団地内集会所で、**就学前の親子が集う「出張ひろば(茶の間)」**を開催しており、外国人の利用もあります。「おやこにほんごタイム」は、この**日本人・外国人双方の利用者のいる環境に日本語を学ぶ機会をプラスする**、という形で行うことになりました。

毎回、子育てにおけるテーマ(左記)に沿った日本語学習や子育て情報の提供、手遊び歌や絵本の読み聞かせを通じて、**親子が体験的に日本語や日本文化に触れるプログラム**を展開しました。

テーマ1

お弁当



テーマ2

幼稚園・保育園



テーマ3

病気・病院



●●● 実施内容一覧

準備会 2 回、「おやこにほんごタイム」3 回

日時・参加者	内 容	
準備会① 9月17日(木) 13:00-15:45 参加者:11名 (内4名が外国出身)	●●●外国人親子の課題共有 親子日本語教室のイメージをつかむ ・講義、グループワーク ・3回分のテーマ・内容のラフ案	研修実施 YOKE 講師:梅田(アカデミア) 金子(にこてらす) 藤井(YOKE)
準備会② 9月25日(金) 13:00-15:15 参加者:10名 (内4名が外国出身)	●●●第1回おやこにほんごタイムについて ・内容確認・意見交換・役割分担	研修実施 YOKE 講師:梅田
おやこにほんごタイム① 10月23日(金) 13:00-14:30 【参加者】 21名 学習者:4組6名 サポーター:15名 (内5名が外国出身)	●●●テーマ:お弁当 1. 歌「はじまるよ」「おべんとう箱のうた」 2. よみきかせ「おべんとうバス」 3. 日本語・会話文(作り方を聞く)紹介 4. 「私のつくりたいお弁当」 ・各自切り貼りワーク ・レシピ、お弁当内容発表 5. よみきかせ「くだもの」 6. 歌「さよならあんころもち」	全体進行:梅田 よみきかせ・歌: にこてらすスタッフ サポーター:にこてらす利用者 (日本人)、地域日本語教室 ボランティア、YOKE 研修受講 者、泉区多文化共生コーナー 担当者
おやこにほんごタイム② 11月10日(火) 13:00-14:30 【参加者】 10名 学習者:2組3名 サポーター:7名 (内2名が外国出身) (+日本人親子2組)	●●●テーマ:病気/病院 1. 歌「あくしゅでこんにちは」「からだの歌」 2. よみきかせ「いたいよいたいよ」 3. フリートーク①(日本人利用者も一緒) ・病気、病院で困ったこと、地域情報 ・必要な日本語紹介・情報提供 4. 症状⇄診療科クイズ 5. フリートーク② ・会話例(119 通報)練習、体の部位、 外国出身者の経験談、受診時アドバイス 6. 受診時の持ち物	全体進行: 梅田・にこてらす よみきかせ・歌: にこてらすスタッフ サポーター:YOKE 研修受講 者(外国出身)
おやこにほんごタイム③ 11月27日(金) 13:00-14:00 【参加者】 11名 学習者:1組2名 サポーター:9名 (内3名が外国出身) (+日本人親子3組)	●●●テーマ:保育園/幼稚園 1. 歌「はじまるよ」「ぐーちよきぱー」 2. よみきかせ「いないいないばあ」 3. フリートーク(日本人利用者も一緒) ・感染症と登園許可証 ・各国の離乳食、家庭での言語 ・保護者との関わり →アドバイス、会話練習	全体進行: にこてらす・梅田 よみきかせ・歌: にこてらすスタッフ サポーター:YOKE 研修受講 者(外国出身)

●●● 「おやこにほんごタイム」準備会から実施までのながれ

1 準備会① p.7

外国人親子の課題共有
親子日本語教室のイメージをつかむ
・講義、グループワーク
・3 回分のテーマを検討

●課題を共有しよう

外国出身の方の出産・子育てエピソードの切実さから、外国につながる親子の課題を皆で共有することができました。

2 準備会② p.8

会場：出張ひろば(阿久和田地集会所)見学
第1回「おやこにほんごタイム」内容について
・意見交換、役割分担
・チラシ案検討

●プログラムを作ってみよう

第1回テーマ「お弁当」について、意見交換。外国出身メンバーの意見を重視して組み立てよう、という姿勢がうかがえました。

3 おやこにほんごタイム① p.9

テーマ：お弁当
・会話文の紹介
・「私の作りたいお弁当」切り貼りワーク
・机を並べる教室スタイル

●食べ物の話題は話しやすいし盛り上がる！でも、「教室スタイル」は難しい・・・？

プログラム進行を気にして自由に話せない…。「出張ひろば」の日本人親子との間に壁ができてしまったかも…。

4 おやこにほんごタイム② p.10

テーマ：病気・病院

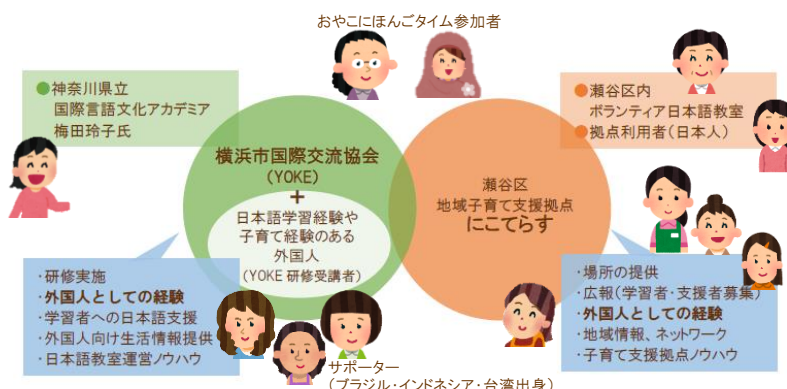
5 おやこにほんごタイム③ p.11

テーマ：保育園・病院

・テーマに沿ったフリートーク
→困ったことを引きだし、
経験談や地域情報をシェア
・場面に合った日本語の会話練習

●フリートーク重視、日本人親子も一緒に！

「その人がどんな事に困ったか、何を知りたいか」を個別のフリートークの中で引き出しながら進める方法を試しました。表現が難しい部分は、参加者のわかる言語でサポート。日本人親子にも輪に加わっていただき、地域情報を交換するなど交流も生まれました。



●本報告書登場人物●

「おやこにほんごタイム」には、多くの方が様々な経験・持ち味を活かし関わっています。企画・運営から振り返りまで、それぞれの視点から意見を出し合い進めていきました。

おやこにほんごタイム 準備会 ①

・瀬谷区の外国人親子の課題を知る。 ・親子日本語教室のイメージをつかむ。

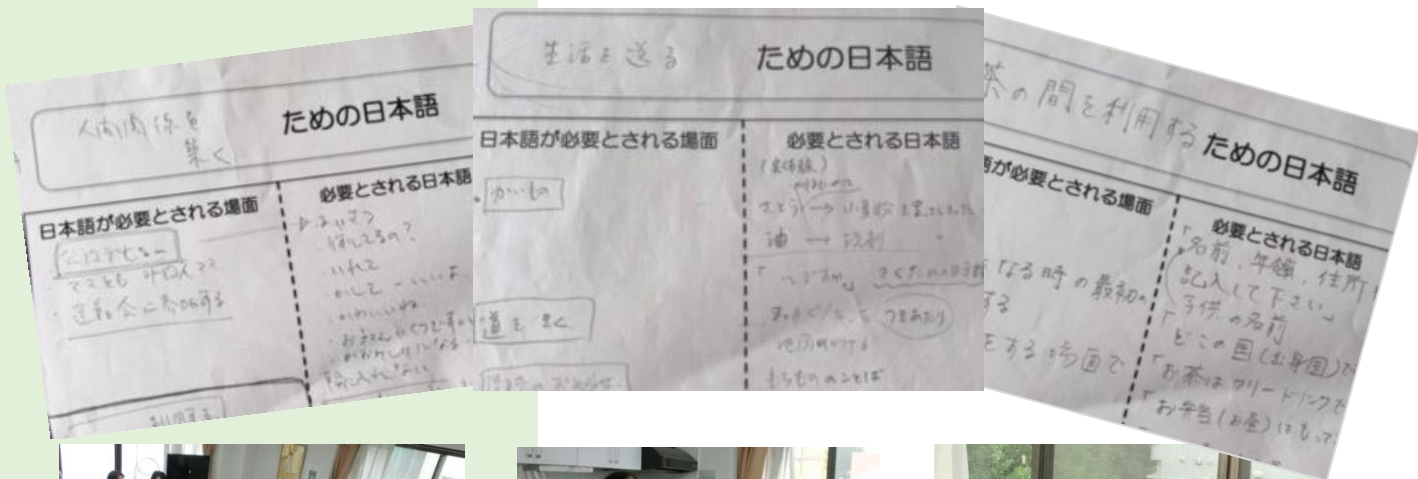


神奈川県立国際言語文化アカデミア 梅田玲子講師
ライフステージごとに必要な日本語支援について、
就学前の親子にフォーカスしお話をいただきました。

講義

1. 外国にルーツを持つ家族の子育てにおける現状と課題(※1)
ー にこてらす 金子 美津子
2. 子育て支援・日本語支援の様々なかたち (※2)
ー 公益財団法人横浜市国際交流協会 藤井美香
3. 親子日本語教室について
ー 神奈川県立国際言語文化アカデミア 梅田 玲子

グループワーク (場面別、必要な日本語支援を考える)



子育て・日本語学習経験のある外国人 (YOKE 日本語ボランティア講座受講者)、
子育て支援拠点運営者、利用者、地域の
日本語教室の方々に参加されました。



インドネシア出身の方より、日本での出
産・子育てでの苦労が語られました。ど
んな場面でどんな日本語が必要か？
という点についても、日本人との関係づ
くりで努力した経験が活かされます。



子育て支援拠点運営者として、同じ子育て
中の母として…どのようなサポートが必要か、
活発な意見が交わされました。夫々の持ち場
を越えて、課題を共有することができました。



外国出身の保護者の方にお話を聞いてよかった。とても切実!

今日初めて参加して外国人の現状と問題を知り、心がせつなくなりました。私にできることがあれば、是非お助けしたいと思います。



ー おやこにほんごタイム準備会① 振り返り・参加者アンケートより

※1 外国にルーツを持つ家族の子育てにおける現状と課題 ～多国籍親子への情報発信 つながり形成に関する報告書～
(多言語子育て情報発信プロジェクト)

<http://lalalaseya.com/wp-content/uploads/2015/04/多言語子育て情報発信報告書.pdf>

※2 横浜で生活する就学前の外国人親子のための 日本語学習支援・子育て支援 調査報告書 (YOKE)

http://www.yoke.or.jp/8nihongo/nihongo/oyako_hokoku.pdf

おやこにほんごタイム 準備会 ②

3回のテーマと内容について意見交換・役割分担・チラシの検討



1. おやこにほんごタイム 1回～3回のテーマを確認
 - ① 10/23 「お弁当」
 - ② 11/10 「病気・病院」
 - ③ 11/27 「保育園・幼稚園」
2. ①のプログラム案提示(梅田講師より)
役割分担(手遊び、読み聞かせ、グッズ紹介、ペアワークなど)



お弁当は日本的。インドネシアはお昼に自宅に戻り昼食をとる。

横浜市内の中学校での話。お弁当に餃子を入れてきた中国ルーツの生徒に対し教師が、「おかずだけでなくご飯も入れてもらえるようお母さんに伝えて」と言った例がある・・・

お弁当づくりが大変、というイメージがつかないように。日常的な工夫や便利グッズ情報を共有できるように。



お弁当の話で、打合せだけでこれだけ盛り上がる。日本語レベルに関わりなく話し色んな意見を聞くのはいい勉強。



● 役割分担 10/23 テーマ:お弁当 ●

- 手遊び歌、よみかせ
 - 出張ひろばスタッフ・利用者
- 子ども見守り・遊び
 - 出張ひろばスタッフ
- おとな日本語導入 →梅田
- おとな(情報・交流)
 - サポート: 地域日本語教室ボランティア YOKE 研修受講者(外国出身)出張ひろばスタッフ



— テーマ「お弁当」についての意見交換より

● おやこにほんごタイム チラシ ●

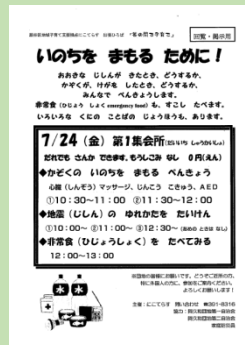
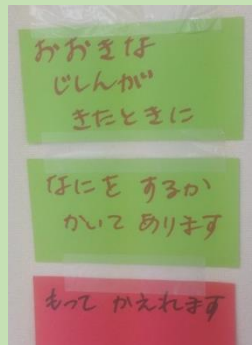
阿久和団地の現状に合わせ、ベトナム語・中国語・英語・やさしいにほんごで作成。チラシは、阿久和団地の自治会の許可を得て、団地各棟の集団ポストへポストインしました。

COLUMN にこてらす・出張ひろばではこんなこともしています・・・



● いのちをまもるために ●

2015年7月、イベントとして防災訓練「いのちをまもるために」が行われました。普段からちらしや多言語資料の説明にやさしい日本語を用いるなど、様々な工夫をされています。



おやこにほんごタイム ①

「お弁当」



2015年10月23日(金) 13:00-14:30
 @阿久和団地第1集会所
 【参加者】21名
 学習者:4組6名 支援者:15名(内5名が外国出身)

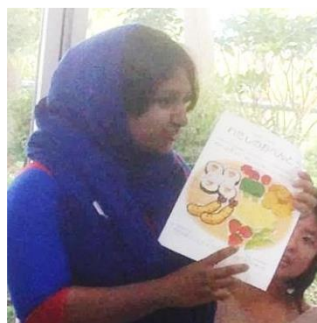
進行	内容	担当
あいさつ	あいさつのことば	梅田
てあそび歌 よみかせ	「はじまるよ」 「おべんとう」	出張ひろばスタッフ 出張ひろばスタッフ
●こども	ぬりえ、自由遊び	出張ひろばスタッフ
●おとな 情報・交流	「私のつくりたいお弁当」 ・切り貼りワークショップ →発表 ・工夫、衛生面注意 グッズ紹介	梅田 出張ひろばスタッフ YOKE 研修受講者 地域日本語教室 ボランティア
日本語	て形 説明 会話文	梅田
てあそび歌 よみかせ あいさつ	「おべんとう箱の歌」 「はんぱーぐ」 「さよならあんころもち」	出張ひろばスタッフ

教室スタイル、難しい...?

初回は机をコの字方に並べ、学習者とサポーターが交互に座り、進行内容を通訳したり、会話練習やワークショップのサポートを行いました。出張ひろばの他の利用者(日本人親子)との間に仕切りができる形で交流には至らず、次回の課題となりました。



子どもは親と一緒にの空間で、出張ひろばのスタッフが見守る安全な環境で遊びます。てあそび歌や読み聞かせは、親子一緒に行いました。



学習者が自分でお弁当の中身を選び、切り貼りして発表しました。手を動かしながら、作り方の紹介など情報交換する場面も見られました。

— おやこにほんごタイム① サポーター振り返り・アンケートより ↓ ↓

フリータイムが必要。進行を気にして自由に話し辛い。日本語学習者の悩みは、勉強しても使うチャンスがないこと。



せっかく子連れなので、みんなで輪になって、困っていることや先輩の体験など交えながら、リアルなお話をする中で、「にほんご」のコツやワンポイントアドバイスなどをシェアするような会だと実用的で得られるものが多いとおもうのですがどうでしょうか。なかなか子連れだと「机に向かって勉強」は難しいだろうと思います。



母語がわかる人がいたからよかったけど... 誰もいなかったらどうする?



こんなこともありました...

うちの卵焼きは塩・こしょうとパセリでブラジル風♪

おいしそう〜。そうか、別に日本の味じゃなくてもいいよね。



サポーター(ブラジル出身)



卵焼きの味は、みなさんどうしてますか?



● 参加者アンケートより ●

- ・先生達とても熱心で、楽しかった。おべんとうの話と歌もわかりやすく、初心者もわかると思います。(原文のまま)
- ・今日ハンバーグの作り方を学びました。(原文のまま)
- ・皆様と一緒にもっと沢山日本語を勉強したい。ありがとうございます。(中国語)

おやこにほんごタイム ②

「病気・病院」



何を知りたいか、引きだそう！

1回目の反省から、フリータイムを多く設ける形を試しました。テーマに関わる会話例や情報は準備しつつ、個別に自由に話しながら学習者の知りたいことを引き出し、適宜会話練習や情報提供をしていきました。日本人の利用者もフリートークの輪に加わり交流が生まれました。



歌と一緒に体を動かしながら、体の部位の日本語語彙を紹介します。体を動かすと効率よくことばの理解が進みます。大人も子どもと一緒に楽しめる活動です。

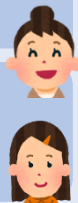


学習者によって知りたい事は異なります。個別に捉えたニーズは、適宜全体でもシェアしながら、必要な日本語表現の練習や情報提供・アドバイスに繋げました。

— おやこにほんごタイム② サポーター振り返り・アンケートより ↓

前回の教室スタイルより、こちらの方が「出張ひろば」に合っている感じ。日本人の利用者にもつなげることができた。

病院で困ったことなど日本人ではわからないことを聞く事ができて良かった。Ex:下痢の時に食べさせていいものについて「やわらかいもの」「消化のいいもの」と言われてもわからない、など。



- 参加者アンケートより ●
- ・ I am so happy
- ・ 生活用語を勉強しました。もっと日本語を勉強したい。(中)

2015年11月10日(火) 13:00-14:30
@阿久和団地第2集会所
【参加者】10名
学習者:2組3名 支援者:7名(内2名が外国出身)

進行	内容	担当
あいさつ	「あくしゅでこんにちは」	出張ひろばスタッフ
てあそび歌 よみかかせ	「いたいよいたいよ」 「からだの歌」	
フリートーク①	病気・病院で困ったこと (日本人利用者も一緒に)	出張ひろばスタッフ YOKE 研修受講者
日本語・情報	・症状や診療科クイズ ・会話例紹介	梅田
子ども自由遊び		
フリートーク②	話題: ・会話例(119番通報)、 体の部位、病院情報など ・受診時の持ち物紹介	出張ひろばスタッフ YOKE 研修受講者

こんなこともありました…

- 1** 参加者Sさんの悩み…

子どもを病院に連れて行く時、とても困ります…

お医者さんの言う病名がわからなくて…
- 2** そういう時どうしていますか？

出張ひろばスタッフ (中国出身)

わからないまま。薬ももらったものをとりあえず飲ませています…。
- 3**

「後で自分で調べるから、書いてください」とお医者さんをお願いするといいですよ。

あ、なるほど！カイトクダサイ… (メモメモ)
- 4**

言葉がわからないと、こんなに不安が大きいんだ… (日本人ママ)

外国出身スタッフのアドバイス、とても説得力があるー！

出張ひろばスタッフ

おやこにほんごタイム ③

「幼稚園・保育園」



「出張ひろば」らしいスタイルができてきた!

学習者のお子さんが幼稚園に通っていることから、2回目のテーマ「病気・病院」の復習も兼ね、感染症と登園の話からフリートークを始めました。「登園許可証」の発行に費用がかかる病院とそうでない病院がある、など、地域性の高い情報が交差されます。派生して、各国の離乳食事情から保護者同士のお付き合いの話に及び、即席でママ友同士の会話練習を行ったりする中で、様々な日本語表現、生活情報が出てきました。

離乳食については、「園などで『だしの味を活かして』とアドバイスされるけど、その『だし』って何?と思った(中国出身スタッフ)」という経験談もありました。日本の子育ての中で周りから当たり前の事のようにアドバイスされる事が、外国出身の保護者にとってはそうでない場合もあります。学習者・支援者(外国出身)の双方から、そうした気づきを得る機会にもなりました。



日本の方々と一緒に話ができ、とっても楽しいです。文化の違いと考え方の違いがたくさんあると思います。



日本人のママとつきあうのは難しい。「こんな時困った!」というトピックとして取り上げてほしい。



● 参加者アンケートより ●

I am very happy that I know many Japanese words. Thank you so much.

2015年11月27日(金) 13:00-14:30

@阿久和団地第1集会所

【参加者】11

学習者:1組2名 支援者:9名(内3名が外国出身)

進行	内容	担当
あいさつ	「はじまるよ」	出張ひろばスタッフ
てあそび歌	「ぐーちよきばー」	
よみきかせ	「いないいないばあ」	
フリートーク	・感染症と 保育園・幼稚園	出張ひろばスタッフ YOKE 研修受講者 梅田
日本語・情報	・登園許可証 治療証明書	
子ども自由遊び	・各国の離乳食、 ・家庭での言語 ・保護者同士の関わり 会話練習、アドバイス	

こんなこともありました・・・

1

うちの子の幼稚園にも外国人の親子がいるんです。何か力になれば、と思うもの・・・

話が续かなかっただろうし
よとか考えちゃって



話したいかどうかもわからないし、声かけてもらえるといいんだけどな・・・

日本人ママAさん

2

うーん・・・

話したくても、なかなか外国人からは声かけられないな～。



いろいろ聞きたいけれど日本語に自信がなくて、自分からは難しいです・・・

出張ひろばスタッフ(中国出身)

参加者Sさん

3

そうなんだ!じゃあこちらから勇気を出して声かけてみます。



サポーター
(台湾出身)

その時、なるべくゆっくり話してもらえると、安心です。

4

Sさんからも、お願いしてみるといいかもね。



出張ひろばスタッフ

そうですね、「ゆっくり はなしてください」

ゆっくりわかりやすく、話しかけてみよう～。

成果・気づき

「日本語教室」にとられない、出張ひろばらしいスタイル

個別に話しながら、困っている事や知りたい事を引き出し、全体でもシェアしながら日本語学習・情報提供に結びつけていきました。決まった時間に来られなくても、個別に合わせて実施することもできます。

全くわからない世界だったのが、実際に外国人の方の様子を見ながらコミュニケーションもとれて、これは続けてやる事に意味があるなあと感じました!!



日本人の出張ひろば利用者となつなぐことができた。

地域性の高い情報交換が可能となり、外国人の状況を日本人保護者が知る機会にもなりました。

日本人ママと同じテーブルでコミュニケーションを取りながら、生活情報や交換でき、交流ができる、自然に日本語も覚え、文化も学び合える。継続して欲しいです!!



外国出身者の経験・通訳・視点が活かされていた。

どんな日本語・情報が必要なのかに始まり、初めて日本語を学ぶ人への配慮など、外国出身のサポーターやスタッフの経験・視点は欠かせないものとなっていました。

(今後にもむけて)外国人先輩ママの経験を語ってほしい。困っていることをわかって架け橋をしてくださるので、とてもよかったです。



今後の課題

おやこにほんごタイムのコーディネーターは必要

子どもの安全を確保しつつ、参加者とコミュニケーションを取りニーズを捉えていくためには、子育て支援拠点の運営者とは別に、場をコーディネートする役割も必要です。

外国語が話せる人がいない場合どうするか？

スタッフに学習者の母語(あるいはコミュニケーション可能な言語)がわかる人がいない場合もあります。「やさしいにほんご」を意識する、指差し教材を活用するなどの工夫が必要です。今後 YOKE では、子育て支援に関わる方向けの研修等も検討していきます。

園・学校との連携

参加者が次に行く所(園・学校)との連携も重要です。就園・就学・親の就労とライフステージが変わっても、関わる人同士で情報共有しながら地域全体で見守っていく姿勢が求められます。

PR

継続していく中で、参加者の口コミや地域のネットワークを活かし、必要な人に情報が届いていくような工夫が求められます。

新たな「子育て共同体」

神奈川県立国際言語文化アカデミア

梅田 玲子

今、猛暑の続くフィリピンの片田舎でこの原稿を書いています。都市から離れたこの地域ではフィリピンの昔ながらの家族形態が残っており、祖父母、父母、子どもの三世代が親戚付き合いも密に、ともに暮らしています。ここでは誰もが子育てに参加します。経験豊富なおばあちゃんから、若いきょうだいまで、誰もが子どもを抱き上げ、話しかけ、世話をします。わからないことがあれば誰かに聞けばいい。ここでの子育てはけっして一人で行うものではないのです。

にこてらすさんの取り組みは、子育てをする共同体を地域に取り戻すものです。そして今回のプロジェクトでは、その共同体の中に子育て中の非日本語話者をとても自然な形で引き入れてくださいました。

お弁当って何をいれればいいの？子どもが病気になったらどうすればいいの？保育園ってどんなシステムなの？異なる言語を話し、異なる社会・文化の中で育った人たちにとって、日本での子育てはわからないことだらけです。日常的に「困った」感を抱えていたり、入園手続きなど大切なところで失敗をしてしまう人もいます。

そんな「困った」を解消するために、にこてらすさんが今回用意してくださったのは「教室」ではなく「出張ひろば」でした。子育てに関する情報を持つ日本人と、子育て中の日本語学習者が「出張ひろば」で出会い、おしゃべりをし、必要な情報や日本語を習得していく。試行錯誤の末、非日本語話者を交えた新たな「子育てをする共同体」が生まれました。

この共同体が継続し、広がっていくことを願ってやみません。

「支援に繋ぐ人」の増殖を目指せ！

瀬谷区地域子育て支援拠点にてらす
利用者支援専任スタッフ 金子美津子

「地域子育て支援」と呼ばれるジャンルに長くかかわりながらも、「外国にルーツのある親子に必要な支援」について、正面から考えたのはわずか2年前。「多言語情報発信」というテーマで調査・研究活動をしてみて、初めて知ったことがたくさんあった。そこから見えた外国人支援の現状は、20年前の横浜の子育て支援を思い出させた。でも、だとしたら、10年頑張れば大きく変わるってことも！それならば、まずはやれることをやろう！と思った。

- ① 多言語情報発信サイト「ら・楽・La」の立ち上げ(多言語情報発信プロジェクト)
2016年度⇒英語、中国語、ベトナム語に変換予定
- ② 外国人ママデイ企画の実施(瀬谷区地域子育て支援拠点にてらす)
2016年度⇒継続実施
- ③ 同室保育付きの日本語教室(国際交流 Seya、瀬谷区地域子育て支援拠点にてらす)
2016年度⇒継続実施
- ④ 外国人の非常勤スタッフの配置(瀬谷区地域子育て支援拠点にてらす)
2016年度⇒ベトナム語対応スタッフの確保
- ⑤ おやこにほんごタイムの実施(本報告書参照)
2016年度⇒「にほんごでこそだて」(仮)の実施(中国語&ベトナム語スタッフ中心)

結局どんな切り口の支援策でも、肝心なのは「人」だった。「場」も「知識」も「語学」も、「繋ぐ人」がいて初めて生かされる。だからこれから私たちがやるべきことは、その「繋ぐ人」を地域の中に増殖させていくことなんだと思う。

今私は支援拠点の中で、日々新しい外国人ママとパパに出会い、そしてたくさんの先輩外国人ママに助けられながら、日常会話に「やさしいにほんご」が混ざる日々が、ちょっと楽しくなっている。

外国出身者がもっと活躍できる場を！

公益財団法人 横浜市国際交流協会

YOKE は「多文化共生のまちづくりに向けた日本語学習支援の充実」という目的を掲げ、今までさまざまな研修会を開催してきた。その受講者の多くは日本人であったが、2014 年、日本語学習経験者(外国人)と日本語ボランティアがともに教室づくりを考える新しい形の研修会(※1)を開催し、参加した外国人当事者の活動意欲を実感することができた。「おやこにほんごタイム」は、当事者が日本語支援に関わる第一歩となった。

「おやこにほんごタイム」準備会では、外国出身の YOKE 研修受講者が自分の経験を語ってくれた。異国で大変な苦労を重ね子育てしてきた外国人の切実な体験が、準備会の内容を深め、同じような立場の外国人親子を支えたいという思いを、その場の全員が共有することができた。**当事者が参画してその声を活かしていくことこそがこの活動の要**であること、それがすくと腑に落ちた瞬間だった。にほんごタイム実施の折には、外国出身の彼女らが参加者に寄り添い、経験者ならではのサポート役を担った。また、積極的に日本人側に意見を出す姿は、**その人の力が発揮**され、生き生きとしていた。

「おやこにほんごタイム」にはさまざまな**“当事者”**(外国出身者、子育て経験者、日本語学習経験者、日本語支援経験者、地元で子育て中の日本人…)が参画した。「おやこにほんごタイム」の舞台となった出張ひろばのスタッフはみな、元利用者で、今回の「おやこにほんごタイム」参加した外国人のなかにも、終了後ボランティアスタッフになった者も現われた。にこてらすさんは「利用者が運営者に回る」という循環を作り出し、同じ地域の日本語ボランティア教室や小学校とも連携しながら当事者参画型の地域づくりをすすめている。一方、YOKE は、日本語専門家を引きいれながら、外国人参画型の親子日本語教室のノウハウを提供した。現在、『親子にほんごタイム活動ネタ集』も公開準備中である。

今後も具体的な活動を、当事者参画型で、そして地域に出向いて創っていきたいと考えている。そのためには、地域を熟知した地元住民との協働が欠かせない。活動の入口のところで YOKE がコーディネーション的役割を担い、その地域ならではの課題解決のしくみづくりに寄与したいと考えている。この活動はまさしく**外国人住民が地域の担い手として活躍する多文化共生社会への道筋のひとつ**だと確信している。

※1)2014 年度教室実習型研修報告書 http://www.yoke.or.jp/8nihongo/nihongo/2014_jisshu.pdf

